

ダストコントロール製品性能評価認定事業実施要綱

平成27年1月23日

1 評価認定事業の目的：

本事業は、新品のダストコントロールマットがもつ各種の性能について一般社団法人日本ダストコントロール協会（以下「協会」という。）が一括して試験を実施し評価を行い、それぞれのマットがどのような性能を持っているのかを消費者に分かりやすく表現するための評価認定を行うことにより、ダストコントロール製品の品質及びサービスの向上を図ることを目的とする。

2 事業の内容：本事業は以下を内容とする：

- (1) ダストコントロールマット製品(新品)の性能についての試験評価及び認定
- (2) 認定製品への評価結果の表示

3 申請者：

本事業に申請できる者は、ダストコントロール製品に一般ユーザー向けの自己のブランドをつけ提供するダストコントロールレンタル事業者とする。

また、ダストコントロールレンタル事業者とマットメーカーが共同で開発する場合は、ダストコントロールレンタル事業者を窓口として申請するものとする。

4 申請に当たっての誓約：

申請者は、申請に当たり、協会の倫理綱領（昭和60年3月22日制定）（要綱別紙1）の遵守を誓約しなければならない。

なお、申請者が協会の倫理綱領を遵守していないことが判明した場合は、評価認定を取消すことができるものとする。

5 性能評価認定の申請：

- (1) 申請者は、協会に直接申請を行うものとし、委託検査機関へ直接申込みことはできない。
- (2) 申請は、ダストコントロールレンタル事業者の任意とする。

6 対象製品：

- (1) 協会のレンタル用ダストコントロールマットの自主基準のうち、「マットのレンタル耐久性試験基準」（平成16年10月29日制定）（要綱別紙2）を満たしているレンタル用ダストコントロールマットを対象とす

る。

- (2) 自社で取り扱っている製品の「新品」を試験対象とする。
- (3) 一定の原材料、製法による1単位の製品の範囲については、次の項目で規定する。なお、①、②について、評価認定書へ表示する。

- ①商品名
- ②パイル素材と混用率
- ③ゲージ
- ④ステッチ
- ⑤パイル長（平均値）
- ⑥ループカット割合
- ⑦目付重量
- ⑧後加工の有無と目的

なお、上記②～⑦の6項目について、±5%を超える変化が生じた場合は、同一製品でないと判定する。

7 性能試験及び試験項目並びに性能評価：

- (1) 性能試験は、ダスト保持性能、水保持性能及び油保持性能について行うこととし、その試験項目はそれぞれ次の項目とする。
- 1) ダスト保持性能
 - ①ダスト標準保持性能（ダストを多く取り込む性能）
 - ②ダスト限界保持性能（ダストの飛散を防ぐ性能）
 - ③ダスト捕集性能（靴底からダストを捕集する性能）
 - 2) 水保持性能
 - ④吸水性能（水を多く吸う性能）
 - ⑤保水性能（負荷をかけても水を保持する性能）
 - ⑥水捕集性能（靴底から水を捕集する性能）
 - 3) 油保持性能
 - ⑦吸油性能（油を多く吸う性能）
 - ⑧保油性能（負荷をかけても油を保持する性能）
- (2) 性能試験の申請は、(1)の三性能の全て又は1)ダスト保持性能、2)水保持性能若しくは3)油保持性能のいずれかもしくは複数を選択して行うことが出来る。ただし、保持性能別に試験を行う場合は、それぞれの試験項目の全てについて行わなければならない。
- (3) 性能試験は、別に定める「ダストコントロールマット製品性能評価試験要領」により行う。
- (4) 性能評価は、別に定める「ダストコントロールマット製品性能評価基準」により行う。その結果は、性能試験項目毎に5段階評価で行う。

8 評価の実施手順：

協会が窓口になって申請者から申請書、誓約書その他の添付書類及び試験に供する製品を受理する。協会は一般財団法人ボーケン品質評価機構へ性能試験を委託する。試験結果は同機構から協会へ送付され、その結果を基に協会は評価認定書を発行し、申請者へ通知する。

9 評価結果の取り扱い：

(1) 協会は、申請者に対して、性能評価した製品について性能毎及び試験項目毎の5段階評価結果を評価認定書で示すものとする。なお、個別製品の評価結果は、外部には公表しない。

(2) 申請者は、協会発行の評価認定書を基に5段階評価結果に加え、下記の内容を表示するものとする。

- ① 一般社団法人日本ダストコントロール協会認定であること。
- ② この製品の評価認定は、新品について行ったものであること。

10 評価認定申請料：

評価認定申請料は、次のとおりとする。

試験項目	評価認定申請料 (正会員用)	評価認定申請料 (非会員用)
三性能一体セット試験	116,000 円	232,000 円
各性能試験毎		
1) ダスト保持性能セット	73,000 円	146,000 円
2) 水保持性能セット	61,000 円	122,000 円
3) 油保持性能セット	38,000 円	76,000 円

なお、認定申請にあたっては、上記評価認定申請料に加え、認定申請時の消費税を加算した額を納付するものとする。

11 制度の周知：

協会は、制度の周知に努めることとし、制度の概要、申請方法、評価基準等について、協会正会員に通知するとともに、協会ホームページ等で消費者等に公開する。

12 その他：

協会は、本要綱に定めるもののほか、ダストコントロール製品性能評価認定事業実施細則に基づき評価認定事業を実施する。

(附則)

本要綱は、平成27年1月23日から施行する。

倫理綱領

当協会の会員は、衛生的な生活環境づくりの為の、ダストコントロール製品、用具の製造、加工、賃貸及び販売、並びに知識の普及等を通じて、国民の健康保持に資することを究極の目的とし、業界に課せられた社会的使命を自覚して、信頼と業績の向上を計るため、以下の各条項を誠実に遵守することをここに誓約する。

1. 営業活動に際しては、品位と礼節を重んじ、不当な営業行為等により業界の信頼を失墜させないこと。
2. 製品の供給に際しては、関連法規は勿論のこと、当協会の定める品質基準等を厳守し、安全で衛生的な製品提供に最大限の努力を傾注すること。
3. 業務遂行により発生し得る二次的な問題、即ち製品の製造、又は回収されたダストの処理等については衛生管理を充分に行い、以って清潔な環境づくりに貢献すること。
4. 業界への新たな法規制等を伴う案件への対応に関して、行政機関との接渉を要するときは、当協会を通じて、業界全体の状況を勘案の上、社会公益に合致する方向を選択すること。

マットのレンタル耐久性試験基準

1. 洗濯試験方法

(1) 洗濯条件

- ① 洗濯機：100kg 負荷以上のバッチ式洗濯機 または
50kg 負荷以上の連続式洗濯機
- ② 試験マット：5枚
 - ・大きさ：おおむね75cm×90cm または 90cm×150cm の大きさ
 - ・試験マット枚数：5枚
 - ・洗濯負荷量：バッチ式：80%負荷以上100%負荷以下
連続式：同上
 - ・乾燥機：100kg 負荷以上のバッチ式乾燥機

(2) 洗濯・乾燥工程

【バッチ式】

工程 No.	工程名	水位	温度(℃)	時間(分)	薬品
1	洗濯	中	40	10	洗浄剤
2	すすぎ	高	常温	2	—
3	すすぎ	高	常温	2	—
4	すすぎ	高	常温	2	—
5	脱水	—	—	7	—
6	乾燥	—	70	20	—

温度、時間の各数値は最小値。

【連続式】

工程 No.	工程名	温度(℃)	時間(分)	薬品
1	予洗	35	2	洗浄剤
2	予洗	常温	2	—
3	予洗	40	2	—
4	予洗	常温	2	—
5	本洗	40	2	洗浄剤
6	本洗	常温	2	—
7	本洗	40	2	—
8	すすぎ	常温	2	—
9	すすぎ	常温	2	—
10	すすぎ	常温	2	—
11	脱水	—	2	—
12	乾燥	70	20	—

温度、時間の各数値は最小値。

2. 判定基準

「1. 洗濯試験方法」に従って、試験マット5枚について50回繰り返し洗濯した後、全数が以下の6項目を満たしていること。

50回洗濯乾燥を終了したマットは、乾燥終了後、直ちに乾燥機から取り出し、フラットな床面に30分以上放置して冷却したのを確認した後、マットの判定を行う。

(1) マットが破断していないこと

マットの破断は、フラットな床面に置いたマットを目視にて観察し、破断が確認出来ず、なおかつ、長手方向の一端を両手で持ち、マットを上を持ち上げた時に、破断が確認出来ない状態を合格とする。

(2) マット周囲に波打ちがないこと

マットの波打は、フラットな床面に置いたマットを目視にて観察し、床面と周縁ゴムに隙間がない状態か、床面と周縁ゴムの隙間が5mm以下の状態を合格とする。

(3) パイルの抜けがないこと

パイルの抜けは、フラットな床面に置いたマットを目視にて観察し、パイルの抜けがない状態、及び、飛び出したパイルを手でつまんだときに、パイルが抜けない状態を合格とする。

(4) マット生地とバックグゴム間に大きな剥離がないこと

マット生地とバックグゴム間の剥離は、

周辺部：5mm以下

角部：10mm以下

を合格とする。

(5) バックグゴム側にパイルなど繊維の露出や飛び出しが無いこと

バックグゴム面のパイルの飛び出しは、マットを裏返した状態で、ゴム面を目視にて観察し、パイルや基布等の繊維の飛び出しや露出がない状態を合格とする。

(6) バックグゴムに大きな亀裂がないこと

バックグゴムの亀裂は、マット生地の裏面部にはパイルや基布等の繊維の飛び出しや露出がない程度であることと、なおかつ周縁ゴム部には無いことを合格とする。

ダストコントロールマット製品性能評価試験要領

I. ダスト標準保持・限界保持性能方法

1. 序文

この試験方法は、ダストコントロール製品の性能を合理的かつ客観的に評価するための試験方法である。

2. 適用範囲

履物によって外から持ち込まれるダストや床上などに沈積するダストを制御するためのマットのダストコントロール性能試験に適用する。

3. 装置器具及び材料

- (1) ダスト付着機 … 円筒形の容器を一定の回転速度で回転させ、1分間ごとに反転させることのできる装置とする。
- (2) ダスト … J I S 2種 (けい砂)
- (3) ふるい … J I S 網ふるい、目の開き1.18～1.20mm (14mesh)
- (4) ふるい振とう機

4. 試料の調製

4-1. 採取

マット 50mm×50mm 4枚 (試験1回分、計100cm²) 3回分 計12枚

試料マットについては、そのマットが通常行われる洗濯加工を1回行うこととする。

試料はマットの柄を考慮し、全体の代表的サンプルを取るため、12枚を間隔を開けずに連続して採取することとする。

4-2. 試験操作前の調製

試料は、あらかじめ80℃で一定時間乾燥したあと、気温23±5℃、湿度65±15%の室内で12時間以上放置する。

ダストは気温23±5℃、湿度65±15%の室内で12時間以上放置する。

5. 試験室の条件

試験操作は、全て気温23±5℃、湿度65±15%の室内で行なう。

6. 操作

- (1) 1回分ごとの試料重量 (W_0) を0.01gの桁まで正確に測定する。
- (2) 試料重量の約3倍量のダスト及びゴム球5個と共に試料をダスト付着機に入れ、一定時間回転混合する。
- (3) 試料のパイル面を上にした状態で静かに取り出し、ダストと共に24時間静置する。
- (4) 1枚ずつピンセットでつまみ、ピンセットを中心に試料を180度回転させ、さらに反対方向に180度回転させて余剰のダストを落とす。
- (5) 次に、ふるい (網ふるい) の金網の上に、パイル面を上にして試料を載せる。
- (6) 試料を入れたふるいを振とう機にセットし、一定時間振とうして余剰のダストを落とす。
- (7) 試料を取り出し、重量 (W_1) を測定する。

- (8) 次に、ふるいに入った試料を反転し、パイル面を下にする。
- (9) 再び試料を入れたふるいを振とう機にセットし、一定時間振とうして余剰のダストを落とす。
- (10) 試料を取り出し、重量 (W_2) を測定する。
- (11) 12枚の試料を4枚ずつに分け、それぞれ(1)～(10)の操作を行なう。

7. 計算方法

7-1. ダスト標準保持性能

6の操作で得られた3個の W_0 および W_1 の測定値をそれぞれ合計し、 300 cm^2 当たりのダスト標準保持量を計算する。

$$\text{ダスト標準保持量 (g/300 cm}^2\text{)} = W_1 - W_0$$

7-2. ダスト限界保持性能

6の操作で得られた3個の W_0 および W_2 の測定値をそれぞれ合計し、 300 cm^2 当たりのダスト限界保持量を計算する。

$$\text{ダスト限界保持量 (g/300 cm}^2\text{)} = W_2 - W_0$$

8. 製品への適用

製品としてのダスト標準保持性能およびダスト限界保持性能は、製品の面積をそれぞれ乗じて比例計算値で示すものとする。

ダスト標準保持量、ダスト限界保持量に、マット製品のパイル部の面積を乗じた値。

$$(\text{ダスト標準保持量} \div 300) \times \text{マット製品のパイル部面積 (cm}^2\text{)} \quad \text{g/枚}$$

または

$$(\text{ダスト限界保持量} \div 300) \times \text{マット製品のパイル部面積 (cm}^2\text{)} \quad \text{g/枚}$$

II. ダスト捕集性能試験方法

1. 序文

この試験方法は、ダストコントロール製品の性能を合理的かつ客観的に評価するための試験方法である。

2. 適用範囲

履物によって外から持ち込まれるダストや床上などに堆積するダストを制御するためのマットの素材及び製品のダストコントロール性能試験に適用する。

3. 装置器具及び材料

- (1) テスト用靴 … 静電気帯電防止靴
- (2) ダスト … J I S 1種とJ I S 2種を混合したもの
- (3) バット … ステンレス製 × 3
- (4) ダスト回収用マット

4. 試料の調製

4-1 採取

試験用マット 200mm×300mm 3枚

試料はマットの柄を考慮し、全体のサンプルを取るため、3枚を、間隔を開けずに連続して採取することとする。

4-2 操作前の調製

試料は、あらかじめ80℃で一定時間乾燥した後、気温23℃±5℃、湿度65%±15%の室内で12時間以上放置する

5. 試験室の条件

操作はすべて気温23℃±5℃、湿度65%±15%の室内で行う。

6. 操作

- (1) 試料マット重量 (W_0) と回収マット重量 (W_1) を0.01gの桁まで正確に測定する。
- (2) ダストを入れたバットに、試験者がテスト用靴を履き片足で一定時間踏む。
- (3) 次に、ダストを踏んだ足で空のステンレスバットを一定時間踏む。更にもう一度、ダストを踏んだ方の足で別の空のステンレスバットを一定時間踏む。
- (4) ダストを踏んだ方の足で試料マットの中央を一定時間踏み、その後ダスト回収用マットを繰り返してひねりながら踏んで、取り残されたダストを回収する。
- (5) 前記(2)～(4)を100回繰り返し行い試料マット重量 (W_2) と回収マット重量 (W_3) の測定を行う。
- (6) 1アイテムにつき、前記(1)～(5)を、試料を換えて3回 ($n=3$) 行う。

7. 計算方法

除塵性能 (ダスト捕集率%) = $(W_2 - W_0) / (W_2 - W_0 + W_3 - W_1) \times 100$

100回の除塵性能を確認する

3回の測定の各々についてダスト捕集率を求め、3回の平均値を算出し、小数点以下1けたに丸める。

Ⅲ. 吸水・保水性能試験方法

1. 序文

この試験方法は、ダストコントロール製品の性能を合理的かつ客観的に評価するための試験方法である。

2. 適用範囲

履物によって外から持ち込まれる水分を制御するためのマットの吸水性及び保水性を測定する試験に適用する。

3. 使用器具 アクリル板、ストップウォッチ、バット、錘、バケツ等、電子天秤

4. 試料の調製

マット 100mm×100mm 計3枚

試料マットについては、そのマットが通常行われる洗濯加工を1回行うこととする。

試料はマットの柄を考慮し全体の代表的サンプルを取るため、3枚を間隔を開けずに連続して採取することとする。

5. 試験操作

○吸水性試験

(1) 1回分ごとの試料重量 (W_0) を正確に測定する。

(2) バケツ等に水を入れ、水に試料を浸ける。次いで、気泡が出なくなるまでマットを揉んで十分吸水させる。

(3) 試料を水平にした状態で水から取り出し、土台用アクリル板に試料を静置する。

(4) 一定時間静置後、試料を水平にした状態で重量 (W_1) を測定する。

○保水性試験

(5) 重量 (W_1) 測定後、試料を再び土台に置き、その上に錘を乗せる。

(6) 一定時間静置後、試料を水平にした状態で重量 (W_2) を測定する。

6. 計算方法

6-1. 吸水性能

5の操作で得られた3個の W_0 および W_1 の測定値をそれぞれ合計し、 300 cm^2 当たりの吸水量を計算する。

$$\text{吸水量}(\text{g}/300\text{ cm}^2) = W_1 - W_0$$

6-2. 保水性能

5の操作で得られた3個の W_0 および W_2 の測定値をそれぞれ合計し、 300 cm^2 当たりの保水量を計算する。

$$\text{保水量}(\text{g}/300\text{ cm}^2) = W_2 - W_0$$

7. 製品への適用

製品としての吸水性能および保水性能は、製品の面積を乗じて比例計算値で示すものとする。

吸水量または保水量に、マット製品のパイル部の面積をそれぞれ乗じた値。

(吸水量÷300) × マット製品のパイル部面積 (cm²) g/枚

または

(保水量÷300) × マット製品のパイル部面積 (cm²) g/枚

IV. 水捕集性能試験方法

1. 序文

この試験方法は、ダストコントロール製品の性能を合理的かつ客観的に評価するための試験方法である。

2. 適用範囲

履物によって外から持ち込まれる水分を制御するためのマットの素材及び製品の水捕集性を測定する試験に適用する。

3. 装置器具及び材料

- (1) テスト用靴 … 静電気帯電防止靴
- (2) バット … ステンレス製 × 4
- (3) 水分回収用布 … 綿白布

4. 試料の調製

4-1 採取

試験用マット 200mm×300mm 3枚

試料はマットの柄を考慮し、全体のサンプルを取るため、3枚を、間隔を開けずに連続して採取することとする。

4-2 操作前の調製

試料は、あらかじめ80℃で一定時間乾燥した後、気温23℃±5℃、湿度65%±15%の室内で12時間以上放置する

5. 試験室の条件

操作はすべて気温23℃±5℃、湿度65%±15%の室内で行う。

6. 操作

- (1) 試料マット重量 (W_0) と回収用布重量 (W_1) を0.01gの桁まで正確に測定する。
- (2) 水を注ぎ入れたバットに、試験者がテスト用靴を履き片足で一定時間踏む。
- (3) 次に、水を踏んだ足で空のステンレスバットを一定時間踏む。更にもう一度、水を踏んだ方の足で別の空のステンレスバットを一定時間踏む。
- (4) 水を踏んだ方の足で試料マットの中央を一定時間踏み、その後バット内に敷いた水回収用布を繰り返し踏んで、取り残された水分を全て回収する。
- (5) 前記(2)～(4)を20回繰り返し行い試料マット重量 (W_2) 及び回収用布重量 (W_3) の測定を行う。
- (6) 1アイテムにつき、前記(1)～(6)を、試料を換えて3回 ($n=3$) 行う。

7. 計算方法

捕水性能 (水捕集率%) = $(W_2 - W_0) / (W_2 - W_0 + W_3 - W_1) \times 100$

20回の捕水性能を確認する

3回の測定の各々について水捕集率を求め、3回の平均値を算出し、小数点以下1けたに丸める。

V. 吸油・保油性能試験方法

1. 序文

この試験方法は、ダストコントロール製品の性能を合理的かつ客観的に評価するための試験方法である。

2. 適用範囲

履物によって外から持ち込まれる油分を制御するためのマットの吸油性及び保油性を測定する試験に適用する。

3. 使用器具及び材料

アクリル板、ストップウォッチ、バット、錘、バケツ等、電子天秤、菜種油（以下、単に「油」と称する）

4. 試料の調製

マット 100mm×100mm 計3枚

試料マットについては、そのマットが通常行われる洗濯加工を1回行うこととする。

試料はマットの柄を考慮し、全体の代表的サンプルを取るため、3枚を間隔を開けずに連続して採取することとする。

5. 試験操作

○吸油性試験

- (1) 1回分ごとの試料重量 (W_0) を測定する。
- (2) バケツ等に油を入れ、油に試料を浸ける。次いで、気泡が出なくなるまでマットを揉んで十分吸油させる。
- (3) 試料を水平にした状態で油から取り出し、土台用アクリル板に試料を静置する。
- (4) 一定時間静置後、試料を水平にした状態で電子天秤に移し、重量 (W_1) を測定する。

○保油性試験

- (5) 重量 (W_1) 測定後、試料を再び土台に置きその上に錘を乗せる。
- (6) 一定時間静置後、試料を水平にした状態で重量 (W_2) を測定する。

6. 計算方法

6-1. 吸油性能

5の操作で得られた3個の W_0 および W_1 の測定値をそれぞれ合計し、 300 cm^2 当たりの吸油量を計算する。

$$\text{吸油量 (g/300 cm}^2\text{)} = W_1 - W_0$$

6-2. 保油性能

5の操作で得られた3個の W_0 および W_2 の測定値をそれぞれ合計し、 300 cm^2 当たりの保油量を計算する。

$$\text{保油量 (g/300 cm}^2\text{)} = W_2 - W_0$$

7. 製品への適用

製品としての吸油性能および保油性能は、製品の面積を乗じて比例計算値で示すものとする。

吸油量または保油量に、マット製品のパイル部の面積をそれぞれ乗じた値。

$$(\text{吸油量} \div 300) \times \text{マット製品のパイル部面積 (cm}^2\text{)} \quad \text{g/枚}$$

または

$$(\text{保油量} \div 300) \times \text{マット製品のパイル部面積 (cm}^2\text{)} \quad \text{g/枚}$$

ダストコントロールマット製品性能評価基準①

1. 試験項目別評価基準

[ダスト保持性能]		標準保持量	限界保持量
★★★★★	(★5)	45g/300cm ² 以上	15g/300cm ² 以上
★★★★☆	(★4)	35g/300cm ² 以上～45g/300cm ² 未満	10g/300cm ² 以上～15g/300cm ² 未満
★★★☆☆	(★3)	25g/300cm ² 以上～35g/300cm ² 未満	5g/300cm ² 以上～10g/300cm ² 未満
★★☆☆☆	(★2)	15g/300cm ² 以上～25g/300cm ² 未満	2g/300cm ² 以上～5g/300cm ² 未満
★☆☆☆☆	(★1)	計測限界～15g/300cm ² 未満	計測限界～2g/300cm ² 未満

[水保持性能]		吸水性	保水性
★★★★★	(★5)	170g/300cm ² 以上	100g/300cm ² 以上
★★★★☆	(★4)	130g/300cm ² 以上～170g/300cm ² 未満	80g/300cm ² 以上～100g/300cm ² 未満
★★★☆☆	(★3)	90g/300cm ² 以上～130g/300cm ² 未満	60g/300cm ² 以上～80g/300cm ² 未満
★★☆☆☆	(★2)	50g/300cm ² 以上～90g/300cm ² 未満	40g/300cm ² 以上～60g/300cm ² 未満
★☆☆☆☆	(★1)	計測限界～50g/300cm ² 未満	計測限界～40g/300cm ² 未満

[油保持性能]		吸油性	保油性
★★★★★	(★5)	140g/300cm ² 以上	90g/300cm ² 以上
★★★★☆	(★4)	110g/300cm ² 以上～140g/300cm ² 未満	70g/300cm ² 以上～90g/300cm ² 未満
★★★☆☆	(★3)	80g/300cm ² 以上～110g/300cm ² 未満	50g/300cm ² 以上～70g/300cm ² 未満
★★☆☆☆	(★2)	50g/300cm ² 以上～80g/300cm ² 未満	30g/300cm ² 以上～50g/300cm ² 未満
★☆☆☆☆	(★1)	計測限界～50g/300cm ² 未満	計測限界～30g/300cm ² 未満

2. 三性能一体評価基準

1. ダスト保持性能

$$\text{星数} = (\text{標準保持量星数} + \text{限界保持量星数} + \text{捕集性星数}) \div 3$$

注) 小数点以下に端数が生じた場合は、切り上げる。

2. 水保持性能

$$\text{星数} = (\text{吸水性星数} + \text{保水性星数} + \text{捕集性星数}) \div 3$$

注) 小数点以下に端数が生じた場合は、切り上げる。

3. 油保持性能

$$\text{星数} = (\text{吸油性星数} + \text{保油性星数}) \div 2$$

注) 小数点以下に端数が生じた場合は、切り上げる。

ダストコントロールマット製品性能評価基準②

[ダスト捕集性能]

星数	評価基準
★★★★★	(★5) 80%以上
★★★★☆	(★4) 70%以上～80%未満
★★★☆☆	(★3) 60%以上～70%未満
★★☆☆☆	(★2) 50%以上～60%未満
★☆☆☆☆	(★1) 計測限界～50%未満

[水捕集性能]

星数	評価基準
★★★★★	(★5) 95%以上
★★★★☆	(★4) 90%以上～95%未満
★★★☆☆	(★3) 80%以上～90%未満
★★☆☆☆	(★2) 70%以上～80%未満
★☆☆☆☆	(★1) 計測限界～70%未満